

子宝和安 子育て世代の方へ 子育て・教育に関するお知らせ



子育て支援センターからのお知らせ

子育てに関する講座や講習会、育児相談などを行っています。申込みが必要な場合がありますので、各ホームページを確認いただくか、問合せください。

▼対象 0歳から就学前の子どもと保護者・妊娠中の方

▼時間 平日 9時～14時

あそびのひろば（当別地区）

▼内容 絵本の読み聞かせ・わらべうた、ぱくぱく教室、お楽しみ会

▼問合せ 子ども未来課子育てサポート係（ゆとり内・☎25-2658）



町ホームページ

おとぎキッズ（太美地区）

▼内容 バランスボール、絵本の読み聞かせ、成長記録

▼問合せ 認定こども園おとぎのくに（☎26-2353）



おとぎのくに
ホームページ

高校生の通学定期代助成の申請はお早めに

令和6年4月から令和7年3月分までの通学定期代助成の申請受付期間は3月31日までです。

申請にはすべての定期券の写しが必要です。購入した定期券の写しは必ず保管してください。ICカード型の定期券の場合、更新時に上書きされる前に写しを保存してください。写しがないなど定期券を購入したことが証明できない場合、助成できない可能性がありますのでご注意ください。詳しくは町ホームページを確認ください。

▼問合せ セールス戦略課ふるさとプロモーション係（☎23-3042）



町ホームページ

児童手当の申請はお済みですか

令和6年10月の制度改正によって、支給対象児童が高校生年代までとなりました。まだ手続きを行っていない方は、令和7年3月31日までに申請ください。令和6年10月分から遡って支給します。

なお、令和7年4月1日以降に申請された場合は、申請月の翌月分からの支給となります。

▼提出先・問合せ 保健福祉課福祉係（ゆとり内・☎23-3019）

子ども発達支援センター指導員を募集

発達に心配のある幼児、児童への療育支援を行う指導員を募集します。

▼場所 当別町子ども発達支援センター

▼勤務 随時採用～令和7年3月31日（更新制度有り）週29時間以内（週4日）

▼人数 若干名

▼要件 保育士、幼稚園、小学校教諭、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、いずれかの資格があれば尚可。

※実務経験のある方は優遇します。

▼報酬 15万400円～17万800円

▼手当 通勤手当（町の規定による）、期末手当、勤勉手当

▼社会保険 原則、健康保険、厚生年金、雇用保険に加入します。

▼応募書類 履歴書、本人の住民票、資格を証明する書類の写し

▼募集期限 随時面接を行います。

▼問合せ 子ども未来課子ども係（ゆとり内・☎23-3024）



図書館からのお知らせ



当別町図書館企画展 第53弾は図書貸出数ランキングの発表

令和6年度の図書貸出数のランキングを発表します。

▼期間 3月30日（日）まで

新着図書

当別町図書館【一般書34冊、児童書30冊】

・「禁忌の子」（一般書）山口 未桜

・「くまのイギリスのふしぎなぼうけん」（児童書）

セヴリーヌ・ヴィダル

当別町図書館西当別分館【一般書26冊、児童書40冊】

・「罪名、一万年愛す」（一般書）吉田 修一

・「きのうの君とみらいの君へ 思春期の6人の物語」（児童書）天川 栄人

▼両館休館日 3月6日（木）

▼問合せ 当別町図書館（☎23-0573）、当別町図書館西当別分館（☎26-3300）



子どもの成長を支える当別町の給食への思い

今は当たり前のように食べている給食も、昭和29年6月3日学校給食の提供を定めた学校給食法の公布から、昨年の令和6年6月3日で70年を迎えました。

私が当別町の教職員として勤務して最初にしたのは、当別町の給食はお〜っても美味しいことです。令和5年度からは、さらに当別町の給食をパワーアップさせ、毎月一回、当別町の食材や姉妹都市の食材、旬の食材等を使用した特別給食「とべっこランチ」を提供しています。成長期の子どもたちに安心・安全な給食を届けるために手間を惜しまず、また、調理員さんだけでなく、地元の多くの生産者の方々の協力によって実現しています。本当にすごいことだと思います。

旧当別小学校の教員時代、私は当別町の給食の味付けに感動しました。当別町の給食は、子どもたちの味覚がだんだんと広がっていくように子どもに妥協しない味付けだと感じました。例えばカレーを、ただ甘口にするのではなく、辛さもしっかり出しています。当時、私が低学年の担任の際、子どもたちは、辛くても、慣れてくると美味しく食べられるようになるんだと感じました。中には、まだ経験がないために残す子もいれば、勧められて口にしてみたら意外に美味しかったという子もいます。



私は、食べてみて、苦手だなと思うのも大事な経験だと思います。以前は食べられなかったものを、大人になってから食べたとき、「この味、知ってる!」と感ずることがあります。でも、少しでも口にした経験がなければ、記憶はよみがえりません。子どもの「舌の記憶」は、将来の食生活の基盤となる大切なものです。当別町の給食は、様々な美味しさがわかるよう、心と体の成長に何が必要かを考えて作られています。



いろいろな市町村の給食を食べてきましたが、私は当別町の給食が一番大好きです。美味しく給食を食べるのは、楽しいと思いませんか。「美味しい!」と思うと、思わず笑顔になります。ぜひ、子どもたちにも楽しく給食を食べてもらいたいです。苦手な食べ物は絶対にダメという子は、それは仕方ないですし、無理に食べさせる必要はありません。嫌だと思いながら食べたら、体がうまく受け入れてくれません。それよりも、みんなで食事をしている場が楽しくて、何気なく口に入れてみたら、意外と大丈夫だったというほうがいいはず。料理には、作る人の気持ちが入ると思います。美味しいとか、優しい味がするとか、何か自分の体に訴えるものがあれば、作った人の気持ちが入っているはず。給食センターの調理員さんにとって、毎日の給食は、一回一回が真剣勝負です。今日だけ頑張るとか、手を抜いていいという日はありません。美味しいという笑顔を思い浮かべて、気持ちをいっぱい込めて調理されています。

給食センターのお仕事は、調理に注目が集まりますが、「掃除に始まり、掃除に終わる」仕事です。毎日、午前の仕事が済んだら掃除をし、午後の仕事の後にも前と同じ状態に戻すまで掃除をするので、調理員さんは本当に重労働です。そんな中、当別町の給食の美味しさは、給食センターの皆さんが、子どもたちのために美味しさと安心・安全を追及して仕事をされているからこそ、実現しているのだ



と感じています。目の前にある一皿ができるまでに、たくさんの人の手間がかかっています。生産者がいて、作ったものを流通させる人がいる。それを選んで買い、調理をして、お皿に盛りつけ、運ばれてきて、ここにある。関わる人たちみんなのおかげで食べることができると思うと、当たり前の給食に心から感謝です。

広 告

広 告